

令和4年度 第4回 府中市障害者計画推進協議会 会議録

日 時：令和5年2月8日（水）午後1時半

場 所：府中市役所北庁舎3階 第5・6会議室 / Web 会議

出席者：（敬称略）

<委員>

曾根直樹、高橋美佳、長崎昌尚、永井雅之、西脇京子、吉井康之、
渡辺理江子、吉田真介、林比典子、中嶋佳代、藤間利明

（以下オンライン）

北條正志、大東寛宜、藤原里美

<事務局>

福祉保健部長、福祉保健部次長、障害者福祉課長
障害者福祉課長補佐兼生活係長、地域福祉推進課課長補佐
防災危機管理課補佐、防災危機管理課災害対策係長
健康推進課補佐、障害者福祉課給付係長、障害者福祉課主査（3名）
障害者福祉課事務職員（3名）

傍聴者：なし

議 事：

- 1 前回の会議録について **【資料1】**
- 2 府中市障害者計画 障害福祉計画（第6期）・障害児福祉計画（第2期）の進行管理について 前回質問事項に対する回答 **【参考資料】**
- 3 府中市障害福祉計画（第7期）・障害児福祉計画（第3期）計画策定のためのアンケート調査について **【資料2、2 - 2、参考資料】**
- 4 今後のスケジュールについて
- 5 その他

資 料：

【事前配付資料】

資料1 令和4年度第3回府中市障害者計画推進協議会会議録（案）

資料2 障害者福祉団体調査票

資料2 - 2 障害福祉サービス事業所調査票

資料3 今後のスケジュールについて

参考資料 第3回質問集

【当日配付資料】

次第

席次表

資料2（修正版）

資料2 - 2（修正版）

議事

古田課長補佐

皆様おはようございます。本日はお忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、令和4年度第4回府中市障害者計画推進協議会を開会いたします。司会を務めさせていただきます、府中市福祉保健部障害者福祉課課長補佐の古田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は新型コロナウイルス感染防止対策としてオンラインと併用で開催いたしますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

本日は、委員18名中14名の出席予定となっております。本協議会規則第4条第2項に規定する定足数を満たし、会議が有効に成立しておりますことをご報告いたします。なお、堀内委員、岡本委員、深井委員、山口委員よりご欠席のご連絡をいただいております。

本日の会議は、おおむね2時間程度を予定しております。皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の協議会には、健康推進課および防災危機管理課が出席しておりますので、ご承知おきください。

お手元の資料を確認させていただきます。事前に皆様に送付しております資料は、資料1「令和4年度第3回府中市障害者計画推進協議会会議録(案)」、資料2「障害者福祉団体調査票」、資料2-2「障害福祉サービス事業所調査票」、資料3「障害者計画推進協議会スケジュール(案)」、参考資料「第3回質問集」です。その他、本日も机上にご用意いたしました資料は、本会議の次第、席次表、資料2（修正版）、資料2-2（修正版）となります。

ここまで資料過不足等ございましたら、挙手にてお知らせください。また障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画の冊子(青色)をお持ちでない方にはお貸しいたしますので、挙手にてお知らせください。

それでは議事に入ります。本日、傍聴の申し出がりましたが、現在来られておりませんので、このまま議事に入らせていただきます。

ここからの進行は曾根会長にお願いいたします。

曾根会長

皆様、よろしくお願いいたします。オンライン参加の皆様もよろしいでしょうか。

本日は傍聴の方がおられないということですが、議事に入ります。

1. 前回会議録について

曾根会長

議事1「前回会議録について」事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

事前配布の資料1をご覧ください。こちらは「令和4年度第3回府中市障害者計画推進協議会会議録(案)」となります。ご承認いただけましたら、所定の手続きの上、会議録の公開を予定しております。よろしくお願いいたします。

曾根会長

ありがとうございました。事前の修正はないということで、皆様よろしいですか。先に進みます。

2. 府中市障害者計画 障害福祉計画(第6期)・障害児福祉計画(第2期)の進行管理について

曾根会長

議題2「府中市障害者計画 障害福祉計画(第6期)・障害児福祉計画(第2期)の進行管理について」ということですが、前回の質問事項に対するご回答について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

事前配布資料の質問集に沿って、ご説明させていただきます。質問集をご覧ください。

前回の会議中にいただいたご質問のうち、会議内で回答したものについては割愛させていただきます。それ以外のご質問について、ご説明いたします。

1つ目「医療的ケアを必要とする成人の人数は何人か(呼吸器必要な人以外も含む)」という問いに対して、令和4年度1月10日現在で95人となっています。

2つ目「防災ハンドブックの周知方法はどのように行っているのか」という問いに対しては、「市HPや障害イベント時での配布、市民向け及び事業者向けに説明会を開催した」となっております。

曾根会長

ありがとうございました。今の回答でよろしいでしょうか。

北條委員（Web）

ありがとうございます。結構です。

曾根会長

前回の質問事項に対するご回答については、以上になりますが、皆様、よろしいでしょうか。

先に進みます。

3. 府中市障害福祉計画（第7期）・障害児福祉計画（第3期）計画策定のための調査票について（案）

曾根会長

議事3「府中市障害福祉計画（第7期）・障害児福祉計画（第3期）計画策定のための調査票について（案）」事務局からご説明をお願いいたします。

アンケート調査の調査票（案）は、事業者向けと団体向けの2種類があります。まず、障害者団体向けの調査票（案）について、ご説明をお願いいたします。

事務局

資料2、参考資料は本日配布しました修正版の資料をご覧ください。委員の皆様には、前回会議でいただいた内容をもとに作成した調査票（案）を、事前に精査していただいております。修正した内容で作成したものがこちらの調査票となります。この内容で最終確認、ご承認をしていただくこととなります。いただいた全てのご意見を反映していないことについては、ご了承いただきたいと思っております。

また、作成後に追加修正がありましたので、ご報告をさせていただきます。

団体調査票をご覧ください。内容については質問集をご参考にさせていただきたいと思っておりますが、少し補足させていただきます。前回の会議でご指摘いただいた、記号や数字等の修正を行いました。全体的に自由意見欄が多いというご意見がありましたので、選択項目を作成し、選択式の回答方法にいたしました。7ページ問16で、計画書の柱となる部分を省略せずに、すべて記載して、ここの部分は自由意見欄を設けています。

本日、資料の修正版を配布しておりますが、さらに1か所、修正がございます。団体調査票の最初のページの本文、上から5行目の「障害福祉団体」という表記は、題

目にそろえて「障害者福祉団体」と修正いたします。

曾根会長

ありがとうございました。団体調査票について、ご意見をお願いいたします。ただし、もう調査の時期は迫っておりますので、大幅な変更は難しいということです。表現や軽微な修正等は可能だということです。

では、ご意見がないようですので、先に進みます。

事業者向けの調査票（案）について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

資料2-2をご覧ください。事業所調査票についても、選択項目を作成しております。こちら、本日、資料の修正版を配布しておりますので、補足させていただきます。

修正版をご覧ください。1ページ(2)の(令和4年9月1日現在)という表記の右側に、「次ページに注記あり」とありますが、レイアウトの関係で削除しております。ご了承ください。

7ページの間14で、()は1つ)という記載がありましたが、(1つに○)という表記にして、他所と揃えています。

11ページの間22-1は、人数を記入していただく設問ですので、(1つに○)という表記は削除します。

12ページ「強度行動障害児者への支援の実施についておたずねします」という設問では、前回よりも設問数を増やしております。その中で、12ページの間23に、(1つに○)という表記が抜けておりましたので、追加しています。

曾根会長

ありがとうございました。ご質問等があればお願いいたします。

林委員

このアンケートの内容ではないですが、12ページの「強度行動障害児者への支援の実施について」の設問がありますが、現在、府中市内にどれくらいの数の強度行動障害児者がおられるのか把握されていますか。

曾根会長

ありがとうございます。事務局、いかがですか。

事務局

この場に数字は持ち合わせておりませんが、確認し、次回の協議会の際にお示しいたします。

曽根会長

障害者支援区分の認定調査を受けておられる方だと、行動関連項目の合計点数がでていますので、そちらで把握できると思います。例えば、千葉市では、「行動関連項目が何点の人が何人」というような細かい数字を出しています。府中市でも、そのような集計をしていただき、数字を公表していただけるとよいと思います。

行動障害のある方は、サービスを断られやすいということがあります。支援が大変なので受け入れていただけないということです。そのような方はサービスが使えず、ご家族がご家庭で苦勞されてお世話しているという実態があるといわれています。自治体としては、細かく把握をすることで、本当にお困りの方がいないかを確認する必要があると思いますので、ぜひご検討をお願いいたします。

10点以上が強度行動障害になりますが、中には20点の方もおられます。そのような方が、きちんとサービスを受けられて生活されているのかを細かくみていく必要があります。

他にご意見等はございませんか。

藤間委員

アンケートの内容についてはではないのですが、お願いいたします。以前の協議会でも二度ほど要望しましたが、アンケート調査の回収率を高めていただきたいと思います。3年前のアンケート調査では70%前後の回収率ということで、かなり高い数値だったと思います。ただ、アンケート調査先が団体や事業所ということですので、理想的には100%の回収率をめざしていただきたいと思います。1つには、アンケート調査票の鏡文にもあるように、次期計画の基礎資料となることを強く訴えていただきたいと思います。ここに記載してあるすべてのことを次期計画に反映することは難しいと思いますが、団体や事業所に意義を伝えることで、回収率を高めていただけたらと思います。

曽根会長

この鏡文に、お願いを盛り込むということによろしいですか。

藤間委員

団体や事業署の数は限られていますので、可能であれば、個別に電話等で「アンケ

ートを出していただいていますか。期限はこの日ですので、お願いいたします」とお願いすることが効果的だと思います。

曾根会長

全部でどれだけの数の団体、事業所にアンケート調査票を送付しますか。

藤間委員

前回の調査では、11 団体、296 事業所でした。

曾根会長

合わせて 300 と考えると、90 の団体・事業所が未回答ということになります。回収率を上げる工夫をご検討ください。他にご意見等はございませんか。

私から申し上げます。言葉の問題ですが、「強度行動障害児者」という表現は、あまり使いません。強度行動障害とは状態像であり、障害名ではありません。「強度行動障害児者」という文言が適切なのかわかりませんが、一般的には「強度行動障害がある人」というような表現をします。用語解説も「強度行動障害」という言葉に対して設けるとよいと思います。人の属性のように受け取られないような表現になるように工夫してください。

他にご意見等はございませんか。

永井委員

アンケート調査票の内容については、これで結構だと思いますが、結果のデータ公表の方式はどのようになっていますか。

曾根会長

アンケート調査の結果公表について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

表紙の裏面のページに、今後のスケジュールを示しております。アンケートを回収した後、それを取りまとめ、調査報告書という形で公表させていただきたいと考えております。

曾根会長

前回の会議でも、アンケート調査結果は、委員会の中でも配られていますね。

林委員

災害時にどのようなことができるか等、いろいろなことをお聞きしていますので、回答結果から「この施設は災害時に避難所として使えるか」ということがわかると思います。災害に備え、内容を整理しておくとういと思ひます。そのようなことはされていますか。また、アンケートの結果の公表に関して、そのような情報を、障がいをお持ち方に伝えると、安心していただけると思ひます。これまで、何回かこのようなアンケート調査をされていますが、数をまとめる以外にも、そのような活用をされていますか。

曾根会長

アンケート結果の活用方法ということで、ご提案いただきました。事務局からお考えがあればお願いいたします。

事務局

ご提案の災害時に備えた活用については、計画の調査報告書を受けて、防災とも連携し、別の方法で周知をするべきだと考えております。切り分けて考えたいと思ひます。

曾根会長

災害時の具体的なことについては、防災計画として示すということです。よろしいですか。

林委員

はい。

曾根会長

他にご意見等はございませんか。

林委員

地域共生社会づくりに向けた協力意向についての設問で、「どのようなことができますか」と聞いています。「地域住民自助等に向けた教育」や「利用者と地域住民の交流の促進」というような選択肢がありますが、このようなことを団体にしていただくようお願いすることは大変なことだと思ひます。市全体で、このような事業に取り組めたらよいと思ひます。

WaiWai フェスティバルや体育祭等を開催していますが、住民や企業に向けた周知

に係るイベントは、市では行っていませんか。

曽根会長

ありがとうございました。企業向けに、障害のある方と交流するようなイベントをしているのかどうかというご質問でよろしいですか。

林委員

事業所に「このようなことも考えてください」という意味の設問項目があるということは、事業所が取り組むことになっているのでしょうか。事業所だけが取り組むことは大変だと思いますので、市全体で取り組みをしていただきたいと思います。

曽根会長

ご意見ということでよろしいですか。

林委員

はい。

事務局

市でも普及啓発等のイベントは行っておりますが、このようなアンケート調査を通じて、各事業所でどのような取組をされているのか、好事例等を把握するという意味でも、把握したいと考えております。

事務局

お伝えします。先ほどのご質問の回答ですが、市内の強度行動障害をおもちの方は、成人と児童を合わせて、在宅で約 110 名を把握しているということです。

曽根会長

前半の地域共生社会に向けた取組については、市も行っておりますが、事業所としての好事例も、実態として把握したいということです。事業所だけに行ってほしいということではないということです。

強度行動障害をおもちの方は、高度関連項目 10 点以上の方が 110 名ということですね。在宅の方ということで、施設入所の方は除く数字だと思います。林委員、よろしいですか。

林委員

はい。

曽根会長

他にご意見等はございませんか。オンラインでご参加の委員の方も、ご発言ください。

吉井委員

先ほどの林委員のご意見に関連して、問 29、30、31 に、市への要望の設問がありますので、ここで市民の声が挙がってくるのだと思います。

曽根会長

ありがとうございました。逆に、市への要望ができるような設問を。

永井委員

精神障害者の家族会から参加しています。精神障害に関することでお聞きします。団体調査票の7ページの問16の項目15で、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて」意見を書くようになっていますが、このケアシステムが精神保健福祉協議会でも取り上げられているという報告があります。内容については障害者計画の中のものなのか、それとも全て市の包括ケアシステムという独自の概念で動いているものなのか、いかがですか。

曽根会長

国の包括と精神保健福祉協議会が、同じものなのか、別のものなのかというご質問です。事務局、いかがですか。

事務局

府中市精神福祉協議会は、府中市からは精神障害に関する普及啓発の委託をしている団体で、市内の精神障害に係る法人や関係団体の代表の方が所属されている団体です。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについては、府中市で要綱を作成し、実施している会議です。委託先府中精神保健福祉協議会に出ておられる方も一部、ご参加をされていますが、精神保健福祉とは、日ごろ接点のない方もご参加されており、組織としては別のものとなっています。

曾根会長

永井委員の団体は、両方に参加されているのですか。

永井委員

両方に参加しています。私の担当は障害福祉計画のほうです。精神保健福祉協議会の担当者から、その話を聞きましたので、確認したいと思いました。

曾根会長

別の会議体ということで、よろしいですか。

永井委員

わかりました。ありがとうございました。

曾根会長

他にご意見等はございませんか。調査票に対するご意見をいただくのは、本日が最後で、この後は実際の調査に入ることになります。

皆さまにご確認をいただけたということで、先に進みます。

4．今後のスケジュールについて

曾根会長

議事4「今後のスケジュールについて」事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

事前配布の資料3をご覧ください。こちらは、令和3年度の初回の会議でお配りさせていただいたものと、ほぼ同様のものです。今後のスケジュールをご説明いたします。

本会議後、アンケート調査票を確定し、団体と事業所に配布いたします。予定では3月中にとりまとめ、4月中に集計、5月には報告書としてまとめる予定です。

また、令和5年度には、第1回の協議会を6月に、2回目は8月に予定しておりますが、庁舎移転の関係で、日程が前後する場合があります。ご承知おきください。

曾根会長

8月の会議は新庁舎で開催ということになりますね。

事務局

8月の下旬であれば新庁舎になりますが、検討中です。

曾根会長

いずれにしても、来年度の後半は新庁舎で会議を開催することになりますね。スケジュールについてご意見がなければ、先に進みます。

5. その他

曾根会長

議事5「その他」として、委員の方から連絡事項等があればお願いいたします。年度末のイベント等の情報でも結構です。

藤間委員

冒頭で、本日の会議には防災関係の方がご出席だとお聞きしましたが、その趣旨は何でしょうか。何らかの関連があるのか、教えていただくとありがたいです。

事務局

これまでの協議会の中で、防災に関するご質問に、その場で回答できなかったことがありましたので、本日は対応ができるよう出席しております。

藤間委員

お忙しいところ、どうもありがとうございます。

曾根会長

ありがとうございました。他にご意見等はございませんか。

中嶋委員

この協議会に参加するようになって、いつも感じていることは、障害の問題は、障害者福祉課とこの協議会だけの問題ではないということです。本来は、サービスも支援も市民の皆さんに周知され、納得していただき、行動していただけることが理想だと思います。先日、府中市のスポーツタウン推進課が、聴覚障害者協会と手話関係者団体に向けて。ボッチャ体験を企画してくださいました。これは福祉サービスではありませんが、障害者理解のためにはとてもよい機会だと思います。閉じた中だけでなく、他の部署と連携することで、障害者理解を広げる機会になればよいと

思います。

曾根会長

ありがとうございました。

折角ですので、他の委員の方からも一言ずつ、ご発言をお願いいたします。

林委員

私は、長くこの会議に参加させていただいていますが、このアンケート調査の内容は、災害時に関する項目が増えたと感じます。これまでも調査の中でお聞きしていたので、相当な量の情報が集まっていると思います。一般の市民の中には、災害時に障害者はどのようにするのか、心配している方も多いと思いますので、ここに集まった重要な情報をどんどん出していただいたほうがよいと思います。地域共生社会をつくるためには、事業体だけが取り組むのではなく、一般の市民も巻き込むことが必要で、呼びかけは重要だと思います。一般市民に届くPRの方法をご検討いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

曾根会長

防災の方が来られているので、災害時に障害者の避難場所をどのように周知しているのか、教えていただけますか。

事務局（防災危機管理課災害対策係長）

障害のある方の避難場所については、府中市では、府中市防災ハンドブック、府中市水害ハザードマップを全戸配布して、防災教育に活用しているところです。また、観光グッズを使い、防災出前講座等を開き、自治会や企業、学校の生徒に対しても、防災教育を実施しています。

特に水害に関しては、令和元年の東日本台風のときの教訓から、要配慮者の方専用の避難所がないと困るということで、文化センターや生涯学習センター等がバリアフリーであるという観点から、活用できる体制を整えています。今後とも、市民の皆様に対する周知、啓発に努めてまいります。

曾根会長

ありがとうございました。やはり担当課の方がおられると、詳しくお聞きできます。個別避難計画の作成については、どのように進めておられますか。

事務局（防災危機管理課災害対策係長）

府中市では、昨年 11 月に、府中市避難行動要配慮者避難プラン、全体計画を策定しました。要支援者の方、一人ひとりがどのように避難するのか、どのように支援するのかを定め、後の個別計画につなげていきたいということで、全体計画を策定したところです。個別計画については、いきなり市内の要支援者全員のものをつくることは難しいので、福祉部門の関係者と相談しながら、ある程度の優先順位を定めたいので、優先度の高い方の計画から作成したいと考えております。

曽根会長

ありがとうございました。これから優先順位を決めるということですね。人工呼吸器等、電源喪失すると命に係わる機械が必要な方は優先度が高いと思います。具体的に進めていただけるとありがたいと思います。

吉田委員

4 月から参加させていただきました。私どもは精神障害担当の事業所ですので、規模の大きい会議に出席する機会もありますが、普段は地域生活支援センターで計画相談等をしております。いろいろ会議に参加させていただくことで、団体内で取り組んでいることを話題にすることで、勉強させていただいています。会議以外にも、事業所同士で防災に関することやケースワーカーのモニタリング等に関しても具体的な情報交換ができ、助かっております。

曽根会長

ありがとうございました。前任者の鈴木委員は多くのご意見を言われていましたので、ご遠慮なくご発言ください。

渡辺委員

今年度から関わらせていただき、多くの勉強させていただきました。お役に立つことができず、申し訳なく思います。この障害者会議に関わるまでは、地域の皆様が防災に関して、これほど問題を抱えているとは知りませんでした。より広く、一般の市民の方も関わっていけるような協議会になればよいと思います。

今後もよろしく願いいたします。

曽根会長

障害者計画のところでも、防災に関する内容が出てくるとと思いますので、ぜひ来年度もご発言をよろしく願いいたします。

吉井委員

子どもが運営している法人は社会福祉協議会ということで、先ほどから出ている地域共生社会の実現では、推進に向けて取り組んでいます。27年度から進めているのですが、その中で「制度の狭間」の問題が長くありました。今回、このアンケート調査をみて、「制度の谷間」という文言が使われていますが、言葉が違うので、気になり、国ではどちらの表現を使っているのか調べたところ、厚生労働省でも両方の言葉を使っています。障害者福祉政策関係は「制度の谷間」という表現を使っているようです。本来は統一したほうがよいかもしれないと思いながら見ています。

曽根会長

「制度の谷間」という表現のほうが、より深い感じがしますね。

西脇委員

私は府中市肢体不自由児者父母の会から参加させていただいています。いつも私どものほうからお願いすることが多く、自分も何かの参加できるとよいと思い、委員になりました。

前回、府中市の総合防災訓練に参加したときに、「子どもが参加するのであれば駐車場を確保する」と言っていただけでしたが、なかなか子どもと参加することは難しく、1人で参加しました。第二小学校で、要介護用の避難所を設置するということで、ぜひ見たいと考え、多機能トイレ、段ボールベッド、簡易ベッドが置いてあるところは仕切りカーテンがあり、床にはカーペットのような物が敷いてある部屋等を見学させていただきました。私の子どもは寝ておむつを替える必要がありますが、多機能トイレにベッドがありませんでした。スペースはありましたので、ベッドではなくても、30センチほどの高さがある体育で使用するマットを数枚重ねるだけでも結構ですので、設置していただけるとありがたいと思いました。

できれば、子どもと一緒に訓練に参加したいと思います。実際に行ってみないとわからないことは多く、そこに受け入れていただける設備があるということは、障害をもっている者にとっては心強く、ありがたいと思います。

会の方々にも、次回、機会があれば参加するように伝えたいと思います。

曽根会長

ありがとうございました。ベッドのことについては、防災の担当に伝えてありますか。

西脇委員

その場でお伝えいたしました。

曽根会長

本日も参加されているので、伝わったと思います。

計画に書いてあるだけではなく、実際に検証し、現実を計画に合わせていくというところで、取り組んでいただけるとよいと思います。

永井委員

精神障害者家族会梅の木会から参加させていただいています。新型コロナウイルス感染症の影響で、2年間、会も当事者も翻弄されたと感じています。2類から5類に変更になるということで、新しいステージに入ると思います。会そのものは非常に無力で、当事者の居場所を、週に2回設けていましたが、何か月も閉鎖しました。たまに開くと、勢いのない状況で、いろいろと反省しています。私どもの会としても、もう少し勉強して、当事者にサービスを提供するだけでなく、「このような状況では、このような取組ができる」というような、はっきりとした視点がもてるように、今後は研修等も実施していくべきだと思いました。主体的になるのは利用者ですが、それを運営する会が無力では申し訳ないと思います。市にも、どのような研修ができるのかご助言をしていただき、来年度をスタートしたいと考えています。

曽根会長

ありがとうございました。コロナ禍でも取組が進むように願っております。

長崎委員

前任の桑田の後任として、今年度から参加させていただいております。私も大元が社会福祉協議会で、心身障害者福祉センターに属しており、その中で地域生活支援センターや障害者就労支援センターの立場で仕事をしております。

この協議会に参加させていただき、計画の6つの基本目標は、普段やっていることと非常に深く関わっている内容だと実感しました。社会福祉協議会では「わがまち支え合い協議会」ということを、現在、強く推進しており、これに関しては、基本目標の「共生のまちづくり」や「安心して生活できるしくみづくり」につながると思いますし、就労支援センターは「社会参加」に、地域生活支援センターは「情報提供」や「相談支援の強化」につながると思います。普段の業務が、計画の基本目標の中に、きちんと盛り込まれていることを実感しています。

今後、業務を進めていく上で、計画としっかりとリンクした形であることを意識して取り組んでいきたいと思っています。

本日、審議したアンケート調査票について、回答する事業所の立場から申し上げます。回答率の向上に関するご意見がありましたが、正直に申し上げて、事業所には大変多くのアンケート調査の回答依頼がきます。厚生労働省や東京都等からもアンケート調査があり、毎月、回答をしている状況です。中には、回答に大変時間を要するものもありますが、今回のアンケート調査は比較的、回答しやすい内容になっているので、忘れていなければ回答していただけたらと思います。回答が遅れている事業所には、フォローしていただけたら効果的だと思います。厚生労働省からのアンケート調査も、本当に回答が必要なものには催促がきますので、回答率を上げるためには、そのような対応もご検討いただけたらありがたいと思います。

曾根会長

アンケート調査業務はコンサルタントに委託するのであれば、催促もお願いするとよいと思います。たぶん、厚生労働省の催促も、委託業者からされているはずで

事務局

アンケート調査後の勧奨は実施する予定に入っております。ご意見を参考に、勧奨の方法は検討いたします。

曾根会長

市役所の職員が90件、電話することは大変だと思いますので、委託業者にお願いできるとよいと思います。

北條委員（Web）

1点目、補足をお願いします。次回の協議会でも結構ですが、本日、検討した調査を今後、実施した上で、福祉計画の数値目標やサービス見込み量について協議をするというスケジュールだと思いますが、その数値目標やサービス見込み量を検討する際に、実施したアンケート調査の結果の他に、どのようなデータを参考にされたのかを教えてくださいたいと思います。例えば、障害者の数、障害区分ごとの数実際にサービスを利用している人の数等です。

2点目、意見を申し上げます。当事者が具体的に感じている生きにくさを聞く場面が、どれほど多くあるかは重要だと思います。兵庫の明石市では、福祉や障害に関係なく、市のすべての審議体に、委員10名必ず障害者を1名入れるという条例が4月から施行されます。そのように、より多くの障害をおもちの方自身が声をだせる環境、それを市政に直接反映できる機会をつくることができるとよいと思います。

曽根会長

ありがとうございました。

1点目のご質問に対しては、事務局、いかがでしょうか。

1つは、国が基本指針を示しますので、それは参考にすると思います。他に、この間のサービスの利用実績のデータは市役所にあると思いますので、それらも参考にすると思います。それ以外にも参考にされるデータはありますか。

事務局

国と市からもデータがでていきますので、それと実際のサービスの実績や見込み量も踏まえ、検討していくことになるかと考えております。

曽根会長

よろしいですか。

北條委員（Web）

ありがとうございました。

曽根会長

できるだけ生のご意見を反映していけるような計画にしていくとよいというご意見でした。その通りだと思います。

藤原委員（Web）

私は、発達障害のあるお子さんの早期からの支援の専門家として、参加させていただいています。その立場から、昨年4月から訪問支援事業というものを実施しております。府中市では保健センターや障害福祉課も、非常に事業者にはやさしく、配慮をしていただけ、連携も取りやいと実感しています。

「障害児」という名前がつかない子どもたちも多いので、その子どもたちのフォローや、グレーゾーンの子どもの周りの支援者の人材育成という面でも活動していますが、「福祉計画」とは自分とは関わりがないと感じておられる方も巻き込み、どのように啓蒙活動をしていくのかが重要な視点だと思います。

府中市では、今後、子どもの支援の事業がいろいろと立ち上がっていくと思いますので、このような会議の参加だけでなく、実戦部隊としてぜひお手伝いしたいと考えております。お声かけください。そのためにも、サービスがどのように足りないのかというようなデータは大事だと思いますので、一事業所として、ぜひアンケー

ト調査に協力したいと思います。

曾根会長

ありがとうございました。

小さな子どもさんに関しては、障害の計画はあっても、子育て支援計画と重なる部分もあり、そこが大変重要になると思いますので、ぜひ橋渡しをお願いいたします。

副会長

今回のアンケート調査結果が計画の数値目標に反映されたときに、「この結果をもとにこの数値が決まりました」というような具体的なデータを追加できると、納得できる部分が増えると思います。そのような説明が入れられるようであれば、お願いしたいと思います。

ここでは「計画をたてる」ということが目的ですが、その計画を実行していけなければいけません。この場では、そこまで話し合えませんが、自立支援協議会や包括支援センター等で、この計画を熟知した上で、実行に移していこうという気持ちにならなければいけないと感じました。他の協議会とも情報共有をしながらすすめていけるとよいと思います。ありがとうございました。

曾根会長

ありがとうございました。ご意見の通り、計画とは達成してこそ意味がでてくるものだと思います。

本日の事前打ち合わせでも申し上げましたが、地域移行のことについては、この間、計画に目標値を挙げてきても達成できず、2回ほど前の値に変更したと思います。入所している方には、必ず相談支援専門員がついているので、ご本人が地域移行を希望されているかどうかを、支援員に聞く調査を、ぜひ実施していただきたいと思います。打合せでは、この計画期間中に実施していただけるということでしたので、よろしくをお願いいたします。私に関わっている他の自治体では、すべてそのアンケート調査は実施されています。その結果、2人の方から「地域移行をしたい」というご希望がありました。すると、具体的な地域移行に向けて、どのような取組をしていくのかを考えることができますので、ぜひ府中市でも実施していただきたいと思います。精神科病院の長期入院の方の地域移行の希望の把握に関しては、相談支援専門員がついていませんので、病院に直接調査をするしか方法がありません。私に関わっている他の自治体では、精神障害の方のご意向は、保健センター任せになっているところが多く、障害福祉課とは別の部署で扱っているので、直接調査が難しいという状況です。府中市では包括支援センターの会議もありますので、ぜひ、その

ような場で地域移行の調査を実施していただき、目標達成できる具体的な取組を、この計画の中で進めていただけるとよいと思います。

強度行動障害の関連項目の点数ごとに人数については、できれば次回の協議会のときに集計表をお示ししていただけるとよいと思います。他の自治体でも、そのような集計表を挙げているところもあります。強度行動障害の方の支援を考えると、人数がわからないと抽象的な内容にしかありません。考えているよりも高い点数の方がおられますので、把握することで、より実効的な計画になると思います。よろしく願いいたします。

以上で議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。

古田課長補佐

本年度については、本協議会が最後になります。来年度の協議会は6月開始を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、令和4年度第4回府中市障害者計画推進協議会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。